

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月1日
令和4年9月号

頑張る産地



基本技術の徹底による 抑制トマトの生産安定について

山武農業事務所 改良普及課
主任上席普及指導員 古川 正樹

山武地域の抑制トマトは、近年、猛暑日が多い年が増える等により、生産が不安定になってきています。今回は、J A山武郡市園芸部トマト部会の取組を紹介します。

1 はじめに

抑制トマトの作付の適地は、夏は暑すぎず、晩秋から冬にかけての降霜期が遅い地域です。

近年は、夏期の高温による中段花房以降の着果不良が目立ち、さらに黄化葉巻病等の発生拡大もあり、生産が不安定になってきています。

2 高温対策技術

現在、各農家では次のような高温対策の取組が行われています。①ハウスフィルムの外側への遮光・遮熱ペイント剤の塗布 ②ハウス外側への遮光・遮熱ネットの展張 ③妻面上部への換気窓の設置 ④妻面上部の被覆フィルムをはがし、防虫ネットの取り付け ⑤循環扇の設置



写真1 遮光・遮熱ペイント剤の散布塗布



写真2 妻面上部への換気窓の設置

3 黄化葉巻病等の対策

令和2年度は、トマト黄化葉巻病の発生が多く、部会全体で平年作の1/4程度の減収、中には収穫皆無の農家もありました。このことから、農業事務所やJ A山武郡市では危機感を持ち、令和3年度は黄化葉巻病耐病性品種の試作をトマト部会へ働きかけました。その結果、耐病性品種の作付けが増え、平年作並みの単収に戻りました。令和4年度においても、引き続き試作試験に取り組んでいます。

また、ウイルス媒介昆虫のハウス内部への浸入防止のため、防虫ネットの展張を呼びかけたところ、今作は1mm目合、5mm目合いのネットを展張をする農家は増えてきました。

薬剤による防除については、トマト部会がタバココナジラミに防除効果の高い薬剤を、育苗期～定植後初期に体系処理する試験に取り組んでいます。

4 前作残存窒素量を考慮した適正な基肥施肥

前作残存窒素量により、生育初期の草勢が強くなりすぎてしまうほ場が目立っていました。

令和4年度には、J A山武郡市が中心となり、全農ちばや当農業事務所も協力し、トマト部会の地区ごとに土壌診断に基づく、適正な基肥施用の必要性を伝えてきました。

5 その他管理のポイント

摘果やかん水のポイントについて、以下のとおり周知しました。

- ・1～2段花房では、摘果により着果数を3果に制限し、着果負担を減らす。
- ・気候や草勢を判断しながら、定植・活着後は、従来よりも早い時期から、少量多頻度のかん水とする。

6 今後について

今年の夏も猛暑日が続いていますが、抑制トマトの安定生産に向けて、J A山武郡市と連携してトマト部会への支援を行ってまいります。

流通情報



市場関係者インタビュー

千葉県農林水産部流通販売課

首都圏マーケティングセンター 副主査 柴田俊介

千葉県産農産物の魅力発信と販売拠点確保のため、JA全農ちば・各卸売会社の協力のもと、「千葉県フェア」を開催しています。今回、東京青果株式会社営業開発第1部の岩浪課長に普段の仕事内容、コロナ禍の量販店の変化や産地に求められていることなどお話を伺いました。

1 営業開発部の仕事内容を教えてください。

営業開発部には1部と2部があり、私たちは、「消費者に近い立場」としてユーザー側の目線に立って仕事をしています。

1部では、量販店や全国市場への販売拡大を目指し、小売流通や場内仲卸業者等に深く入り込み、情報の受発信や新規商材・販促等の提案を行っています。社内営業担当者と小売店や他市場を繋ぐパイプ役として、取引が円滑に進むよう心掛けています。近年は、ECへの対応を強化しており、「DXを推進した販売促進活動」もを行っています。

2部では、業務・加工用商材の販売拡大を目指し、外食・中食・食品加工等、市場流通が主体の企業への新規開拓を行っています。これら企業の窓口として、社内各部や場内仲卸業者等との連携を主導し、「ユーザーに寄り添った営業活動」を展開しています。近年は、需要構造の変化や食品ロス削減に対応する「サステナブルな企画提案」を推進しています。

2 量販店でのフェアについて教えてください。

量販店とのフェアの商談は、チラシのスケジュールに沿って動いています。1ヶ月前に量販店で企画テーマが決まり、2週間前になるとバイヤーと品目・規格・数量・価格の商談になります。価格はこの時に決まります。1週間前に数量の注文が入り、納品となります。フェア時の生産状況を予測して商談するため、産地からの情報（品目・規格・数量・生育情報）がとても重要になります。

量販店のフェアというこれまででは、試食での販促活動が主でした。コロナがまん延してから定着したのは「ポイント販促」です。すいかを購入するとポイントが付くといったもので、この「ポイント販促」は2ヶ月前の提案、関連全店舗での実施となるため、情報の精度と確実な物量が必要になります。「推奨販売」（試食無しのマネキン）でも集客効果はあります。購入者への試食サンプル配付やガチャポン・くじ引き等を行うことで、さらに興味を持ってもらえます。

3 産地に求められていることは何でしょうか？

バイヤーだけでなく我々も求めていることですが、2週間前の正確な情報が大切です。情報は変化するものなので、その変化をすぐに伝えてもらう情報の繋ぎも重要です。卸と量販店は一定のスケジュールを決めて動いています。各産地の販売方針があると思いますが、そのスケジュールに沿って出荷に取り組んでいただきたいと思います。

売る立場としては、一番良い（継続した取引ができる）お客様には約束を守れる産地を紹介することになります。2週間前には商談となる昨今、兎にも角にも正確な情報が重要となっています。

4 インタビューを通して

精度の高い情報に責任を持つことで、産地の要望に合わせた出荷体系への変更などお互いに継続できる経営の取組に繋がっていくと感じました。岩浪課長、お忙しい中御対応いただき誠にありがとうございました。

野菜ニュース



3月どりレタスの優良品種の選定 (第69回千葉県野菜品種審査会)

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所
野菜・花き研究室 研究員 小林 由里奈

3月どりレタスの優良品種として、「アイススペランザ」((株)武蔵野種苗園)、「逸香」(横浜植木(株))、「ウィンレー2号(TLE-580)」(タキイ種苗(株))の3品種が選定されました。

1 はじめに

千葉県のレタス作付面積は485ha(令和2年)で、全国有数の冬どりレタスの産地です。主に南房総地域の水田でトンネル栽培が行われています。3月どりでは菌核病などの病気に強く、低温期の結球肥大性に優れ、形状が良く収量性の高い品種の選定が求められています。

そこで、3月どりのトンネル栽培に適するレタスの優良品種を選定することを目的に、千葉県館山市の現地ほ場において、第69回千葉県野菜品種審査会が開催されました。

2 栽培の概要

各種苗会社から出品された12品種を、令和3年10月28日に128穴セルトレイに播種し、12月13日に本ぼに定植しました。栽培は、砂地の水はけがよい水田ほ場で行い、前作は水稲でした。栽植密度は、畝幅140cm、条間28cm、株間35cmの4条千鳥植(黒マルチ使用)としました。有機アグレットスイートコーン専用(13-8-10)を200kg/10a施用し、10a当たり施肥成分量は窒素26kg、りん酸16kg、加里20kgとしました。1月15日にスカイコート5(農PO、厚さ0.1mm)をトンネル被覆しました。1月から2月中旬にかけて低温及び乾燥が続いた影響により、平年より2週間程度生育が遅れましたが、2月下旬以降の気温が平年よりもやや高めに推移したため、多くの品種で3月中旬に収穫可能となり、収穫時の生育も良好でした。

3 審査結果

3月18日に審査員15名で草姿・生育の揃い及び球の形状を審査しました。その結果、1位は「アイススペランザ」((株)武蔵野種苗園)、2位は「逸香(いちか)」(横浜植木(株))、3位は「ウィンレー2号(TLE-580)」(タキイ種苗(株))でした。

いずれの入賞品種も、結球重が600g以上と重く、球径が17cm以上と2L規格以上の大玉となりました(表)。1位の「アイススペランザ」は病害の発生が少なく、生育及び収穫物の揃いが良かった点が高く評価されました。また、球高が低く、球の乱れもなく外観品質にも優れました(写真)。



写真 1位「アイススペランザ」(株武蔵野種苗園)

4 おわりに

以上のように、3月どりレタスの優良品種として3品種が選定されました。高品質で収量性に優れたこれらの上位品種は南房総地域で試作が行われており、今後の普及が期待されます。

表 第69回千葉県野菜品種審査会(レタスの部) 審査結果及び入賞品種の特性

順位	品種名	種苗会社名	得点			結球重 (g)	球径 (cm)	球高 (cm)
			立毛	収穫物	合計			
1	アイススペランザ	(株)武蔵野種苗園	83.3	165.1	248.4	688	17.1	14.4
2	逸香	横浜植木(株)	79.6	167.3	246.9	723	17.2	14.2
3	ウィンレー2号(TLE-580)	タキイ種苗(株)	79.6	166.9	246.5	750	17.5	14.7

注1) 審査は令和4年3月18日に審査員15名で行い、配点は立毛が100点、収穫物が200点の合計300点

2) 調査は審査会当日に中庸な8株について測定した

野菜ニュース



サツマイモ「べにはるか」の ウイルスフリー苗新系統「S-3」の特性

千葉県農林総合研究センター 水稻・畑地園芸研究所
畑地利用研究室 研究員 山下 雅大

「べにはるか」のウイルスフリー苗新系統「S-3」は収量やイモの着生、肥大はこれまでの配付系統「07-5」と同程度であるが、産地で問題となっている細長いイモの発生が少ない。今後は「07-5」に代わって産地へ普及することでA品率の向上が期待される。

1 はじめに

サツマイモでは、ウイルスの感染による収量・品質の低下を防ぐため、ウイルスフリー苗が利用されています。ウイルスフリー苗の元になる株（基核株）は、年月の経過とともに変異が生じ、特性が劣化していくことが知られています。JA全農ちばが配付している「べにはるか」の系統「07-5」は配付開始から約10年が経過し、変異や栽培条件の変化が原因と考えられる“細長いイモ”の発生が目立つようになり、品質の低下が問題となっていました。そこで、新たな優良系統の作出を行い、令和2年度に優れた形質を持つ「S-3」（写真）を選抜したので紹介します。



写真 今年度からの配付系統「S-3」

2 新系統「S-3」の選抜過程

平成28年度に、「べにはるか」配付系統である「07-5」を現地で栽培して得られた多様な長さの異なるイモから、特にイモの長さが短くて揃いの良い優良株を選び、平成29年度に茎頂培養によりウイルスフリー苗を育成しました。平成29年度に1次選抜としてつる割病及び立枯病の抵抗性について調査し、平成30～令和2年度に2次選抜として現地ほ場で外観品質及び収量性の特性調査を行いました。この間に供試した34系統の中から特性に優れた有望系統として「S-3」を選抜しました。

3 新系統「S-3」の特性

(1) 病害抵抗性

検定の結果、「S-3」のつる割病及び立枯病に対する抵抗性はそれぞれ“強”、“やや弱”で「07-5」と同程度でした。

(2) 普通掘り栽培における収量及びイモの形状

平成30～令和2年度の現地ほ場と令和2年度の場内ほ場で行った栽培試験の結果、「S-3」の収量、平均イモ1個重、株当たりイモ数は「07-5」と同程度であり、イモの着生や肥大に差はみられませんでした。イモの形状については、イモの長さが直径の5倍以上である“細長いイモ”の発生率を大幅に減らすことができました（図）。

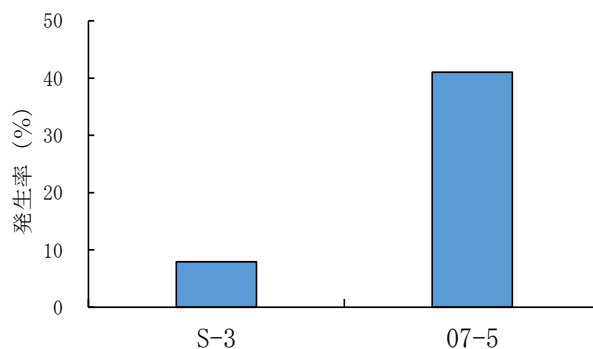


図 細長いイモの発生率（令和2年場内試験）

(3) 貯蔵性と貯蔵後の食味

令和元年度の現地5ほ場に供試したイモを翌年の6月まで貯蔵して、腐敗状況と蒸しイモの糖度を調査しました。腐敗率は「S-3」、「07-5」とともに5%未満で「べにはるか」の特性である優れた貯蔵性が維持されていました。蒸しイモの糖度についても同程度でしっかりとした甘みがありました。

4 おわりに

「べにはるか」の新系統「S-3」は、これまでの配付系統「07-5」と比べて細長いイモが少なく、有望です。今年度よりJA全農ちばから各JAを通して苗が供給されており、「07-5」に代わって産地に広く普及することで品質の向上が期待されます。

野菜ニュース



全農千葉県本部生産対策の取組

全国農業協同組合連合会千葉県本部
園芸部園芸事業企画課 課長 浅香 雅司

令和4年5月号で御案内した、「全農千葉県本部園芸事業の取組」のうち、生産対策として「農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化」に向け、関係機関と連携した「オール千葉体制」による生産振興に取り組みます。

1 基本的な考え方

産地やJ A、千葉県、(公社)千葉県園芸協会、千葉県農業者総合支援センターと連携し、パートナー市場や実需者と結びついた販路の確保、担い手の育成を進め、生産対策と販売対策を両輪に「オール千葉体制」での生産者の経営の安定化および生産拡大に取り組みます。

2 令和元年～令和3年度の主な取組

- (1) 主要品目の生産拡大
取引先のニーズに応じて、加工・業務用提案(キャベツや長ねぎなど)、試験栽培(にんじん)、契約販売等の調整(さつまいも)、環境制御技術(きゅうり・トマト)に取り組みました。
- (2) 地域特産品目ならびに花きの維持・拡大
台風等の災害復旧のための調査を実施し、代替品目の提案をおこないました。
- (3) 出荷規格の簡素化
労力軽減と出荷ロットの確保を目的とした出荷規格の簡素化・統一化を協議しました。
- (4) 作業受託の仕組みづくり
畝たて播種機導入による試験稼働や、収穫・出荷調整等の農作業受託の仕組みづくりを実施しました。
- (5) 安全・安心の取組
GAP等の取組推進による安全・安心な農産物の生産・販売に取り組みました。

3 本年度の取組体制

園芸事業企画課内に生産振興推進事務所が設置され、県本部各部門と協働し、生産対策に取り組みます。(図1)

4 令和4年～令和6年度の主な取組

主な実行具体策

- 前3か年計画から継続すべき取組事項と、産地・J Aとの対話を通じて新たな生産提案を実施します。
- (1) J Aの農業振興計画に基づいた生産拡大と産地・J Aとの対話を通じた地域品目の生産対策
- (2) 生産が減少傾向にある重点品目(長ねぎ・さつまいも・にんじん・トマト)を中心に生産拡大
- (3) 地域特産品の生産量の維持・拡大に向け、J A域を超えた連携
- (4) 水田基盤整備事業により整備されたほ場や園芸品目の生産提案による新たな産地の育成
- (5) 花きの系統未利用者・低利用生産者への推進強化による系統共販の維持・拡大
- (6) 生産量の確保対策として、労力軽減と出荷ロットの確保を目的とした出荷規格の簡素化・統一化
- (7) 農業リスクに対応するためGAP等の取組推進による安全・安心な農産物の生産・販売

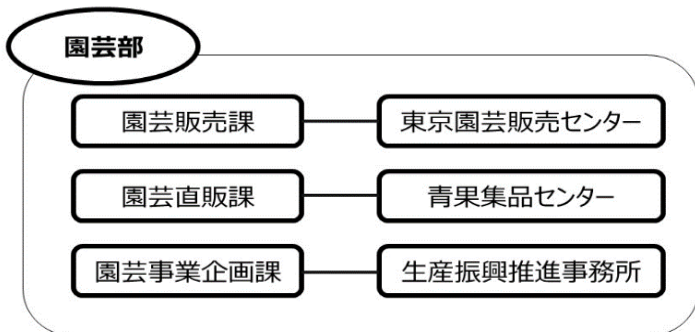


図1 全農千葉県本部園芸部の体制

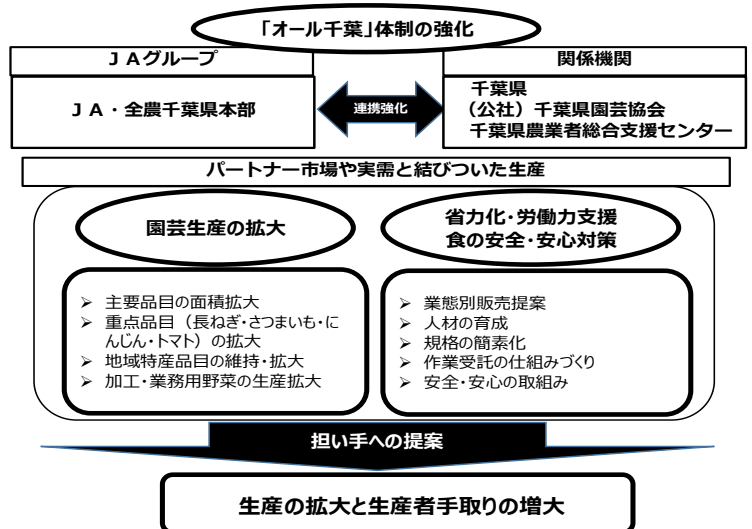


図2 オール千葉体制による生産対策

募集案内



「食のちばの逸品を発掘 2023」の参加商品の募集

千葉県農林水産部流通販売課
販売・輸出促進室 主査 中村 春菜

千葉県と「ちばの『食』産業連絡協議会」では、地域の農林水産業及び食品産業の活性化に役立てることを目的に、県産農林水産物を原料とした加工食品のコンテストを実施します。

今年は、千葉県内に本社、事業所等を置く団体・企業または個人が製造した、千葉県産農林水産物を主たる原料とした加工食品で、量販店、百貨店、インターネット、直売所等での販売により千葉の名物を目指す商品を募集します。応募に当たっては、自薦・他薦（※）を問いません。

※他薦の場合、推薦者は必ず応募者の同意を得ることとし、各推薦者からの推薦は1商品まで。

- ◆応募締切 9月22日（木）（午後5時必着）
- ◆応募方法 県ホームページから応募票をダウンロードし、必要事項を御記入のうえ、電子メールにて応募

◆入賞商品への支援

マスメディア等への商品情報の提供や商談会等の出展支援を予定。「入賞して商談会時の反応が変わった」など過去の入賞者様からも評価いただいています。

※ 詳細は千葉県ホームページを御覧ください。
多くの皆さまからの御応募をお待ちしています！

- ◆問合せ 県流通販売課 販売・輸出促進室
電話 043-223-3085

詳しくはこちら

食のちばの逸品



【2022受賞商品】



一般部門 金賞
寝た芋けんぴ
株式会社芝山農園



一般部門 銀賞
船橋産ベーターキャロット
ポタージュスープ
ZUCCAMO



一般部門 銅賞
純米吟醸 東魁 粒すけ
小泉酒造合資会社



審査員特別賞
房州びわ 枇杷の実
株式会社扇屋

オンラインショップでも購入できます。